



「はるかなる、遠い日の故郷。」 前院長 長 博雪 画



No.21 (平成22年)
 社会福祉法人 鶴風会
 東京小児療育病院
 みどり愛育園
 西多摩療育支援センター
 後援会
 -連絡先-
 東京都武蔵村山市学園4-10-1
 電話 042(561)2521(代表) 〒208-0011
 東京小児療育病院内
 Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
**障害児者の生命機能の維持
 向上と生活援助のため誠実に
 積極的に取り組む障害児者と
 その家族を支援します**

- 1頁 理事長に就任して
- 2頁 院長就任のごあいさつ
- 3頁 理事長退任就任・退職にあたり
- 4頁 北欧研修に参加して
- 5頁 通園での5S活動
- 6頁 西多摩だより・歯ミカップ
- 7頁 後援会だより・永年勤続表彰
- 8頁 ご寄付者名簿

理事長に就任して

理事長 中里 厚

「病院の広告に使う写真を撮って頂けますか？」が私と東京小児療育病院との最初のかかわりでした。昭和三十九年に開設された本病院は当初、宣伝用の写真もない状態でのスタートでした。

当時東邦大学の医学部写真部に属していた私は部員数人で、病院のパンフレットに使う写真をとりました。昼食時に子供たちの食事の介助をし、職員の皆さんの働く姿をみて、これは大変な事業であることを実感しました。

帝国女子医専出身の私の母親も当時評議員としてこの事業に参加していましたので、その後も何度か病院の危機的状態について聞かされました。

昭和四十二年大学紛争時に医学部を卒業し、大学の神経内科へ入局し、神経難病の患者さんと共に約二十年過ごしました、その後杉並区の病院を継承して二十五年が経ちましたが、その間東京小児療育病院の評議員、常務理事として病院の

運営に関与させて頂き、鈴木康之前院長はじめ皆様方から多くのことをお教え頂きました。

亡くなられた元理事長の倉島先生は私によく「腰が痛いんだけどコルセットをする暇がないのよ。寄付を集めるのにならぬで深いお辞儀ばかりしなければならぬから」といっておられました。

その後時代が変わり、企業からの寄付が望めない時代になりました。当病院も施設や看護宿舎の老朽化の問題など様々な問題が出てきましたが、前理事長の五島先生は病院のソフト、ハード両面からとくに事務系の積極的な立て直しを中心に経営を進めてこられました。

当病院の理事、評議員、監事の方々もお忙しいかわら、ボランティアとして長年運営にかかわって頂いており感謝いたします。

本年六月より私が理事長職を拝名しましたが、二十三年三月まで現在所属する杉並区医師会の公衆衛生担当理事としての役目があり、任期中は仕事に対する責任もありますので、兼務ということで役

員会の了承を得ました。前理事長の五島先生が会長職でこの間の代行をしていたが、今後は二頭立ての馬車として協力的に協力をお願いしたいので、皆さま方のご協力を頂ければ幸いです。

院長就任のご挨拶

東京小児療育病院院長

みどり愛育園園長 椎木俊秀

私は平成二十二年四月一日をもって前任の長博雪先生の後任として、東京小児療育病院院長、重症心身障害児施設長（みどり愛育園園長）を拝命いたしました。椎木俊秀と申します。経験も浅い上に、東京小児療育病院という全国的に療育の先進を行っている施設運営の舵取りをするという重責を任され、その責任の重さをひしひしと実感しています。微力ながら、回りの人の力も借りながら、組織をまとめて少しでも前進していけるよう最善を尽くす決意です。どうかよろしく願います。

東京小児療育病院の母体である法人の鶴風会は帝国女子医専（現東邦大学医学部）の女性医師の皆さんが中心になって身体障害児の早期療育を目指して昭和三十七年八月に設立されました。昭和三十九年四月に武蔵村山市に肢体不自由児施設、昭和四十五年九月に重症心身障害児施設がそれぞれ開設され、昭和六十二年五月には全国に先駆けて重症心身障害児者通所事業を開始し、翌年に都の委託を受けました。さらに平成十六年四月には

地元の強い要望に答え、あきる野市に西多摩療育支援センターが開設されました。

当初から「私達は障害児者の生命機能の維持向上と生活援助のため誠実に積極的に取り組み障害児者とその家族を支援します」という理念を掲げ、ご家族や支援者の方々のお力もお借りしながら、職員を上げてその実現のために営々と努力を重ねてきました。その結果、全国の障害児医療・療育の牽引車として大きな役割を果たし、全国からも注目される地位を確立するに至っています。

障害児者の方と家族の皆様が共に今を安心して暮らせ、将来に渡って支援を受けられるという希望を持っていただけられるような施設になることが我々の願いです。どんな重度の方でも何歳になっても発達を促すことは不可能ではありません。ほとんど反応を見せなかった寝たきりの方でも、少し手が動かせるようになった、少し笑えるようになった、ちよつとした音にも驚いていたのに音や音楽を聞き分け楽しめるようになったなど、多くの事実がそのことを物語っています。そしてご本人やご家族はもちろん職員も日々そのような現実には驚き、一人ひとりの持つ可能性に畏敬の念を持つと同時に自らも癒されたり励まされたりしています。

障害児者の方々には家族を含め多くの人々に大きな影響を与え続けています。例えばノーベル賞作家の大江健三郎さんは元々優れた能力に恵まれた方に違いはないと思いますが、重度の障害をお持ちの

息子さんである光さんの存在なくしてはあそこまで能力を開花させることはできなかったのではないのでしょうか。常に光さんを中心に思索にふけり行動し、搾り出すようにして文学を創造されてきたのだと思います。我々は障害のあるなしに関らず、互いに支えあい、助けあい、励ましあい、成長しあう関係なのです。障害児者の方々の存在は、利益や生産性、効率性に偏重しがちな現代において、生きるとは何か、価値とは何か、幸せとは何かを、時には静かに時には激しく我々に問ひかけ続け、多くの心ある人々を社会的行動へと駆り立てています。そういう意味では障害児者の方々は、危機に瀕している現代社会を真に人間的な社会に変革していく社会的・歴史的使命の一端を担っている人々と言えるのではないのでしょうか。そして我々はその方々の支援者としてこの大事業に加わる光栄を受けているとも考えられるのです。

我々は、昨年末には法人の理念を具体化したような運営方針を立てました。

I 障害児者中心の良質な療育の提供

II 先進的な障害医療・療育の開発、展開

III 豊かな人間性と専門性を身につけた職員の育成

IV 経営の安定・効率化と職員の誇り、働き甲斐を重視した運営

これらの運営方針を元にさらに運営目標を具体化しましたが、これらは理念の実現に向けて、職員の思いや目標を一つ

の方向に統一する羅針盤のような働きをするものです。国の政治が憲法という最高法規を元に様々な法律を制定して運営されるのと同じことです。先日、国民の大きな期待に応えて誕生した鳩山政権がわずか九ヶ月足らずで崩壊し、菅政権が誕生しました。その原因は約束したマニフェストを守れなかったからです。しっかりと考え抜いて方針を立て、それを堅持することがいかに大事であるかということを示しています。原則は堅持するが、具体的な運用は状況によってある程度柔軟に対応するという「原則的かつ柔軟」な運営が大切だと考えます。そのためには我々の守るべき原則は何なのかという本質をしっかりと理解しておくことです。

それは取りも直さず障害児者とその家族の方々の医療面・福祉面両面からの支援です。そして、それを具体的に保障するものとして、事業を遂行する施設を健全に経営すること、その組織を構成している職員が誇りと働き甲斐を感じて奮闘することが重要です。つまり「利用者」を頂点にして「経営」、「職員」という土台がそれを支える三つの視点が重要だと考えます。そして今後はさらに地域支援を含めた「社会貢献」の視点も益々大切になってきます。企業もそうですが、病院も社会福祉事業も社会に貢献することによって社会に必要性を認めてもらえない限り存続し続けることは不可能でしょう。

組織を運営していく上ではチームワー

クが重要です。生き物でも生命の単位である細胞が組織や器官を構成し、それが機能的に結びつくことで生命という一つのシステムを築いているように組織も一つの機能的システムです。それぞれが自分の仕事に誇りを持ちきちんと責任を果たすと同時に、他の人の役割や働きを認め、相互理解・相互尊重を促進しチームワークに徹する組織に成長したいと考えます。医療や福祉は自己の生きがいと他者の幸せを重ねあわすことを実現しうる本来とても素晴らしい、人間の本性にピッタリあった仕事ですから、その実現は決して不可能ではないと確信します。

今までの東京小児療育病院の方向性は今後とも引き継ぎ、利用者の方々の健康と発達と生活の質の向上および家族の方々への支援に向け少しでもお役に立てればと願っています。もちろん不十分な点や改善していかなければならない点も山積していますが、理念を忠実に実践してきた歴史を誇りに、利用者や家族の方々、支援者の方々のご意見も伺いながら、その伝統と成果を引き継ぎ、さらに発展させていくことをお誓いして挨拶に代えさせていただきます。

今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

謹啓 盛夏の候 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます

さて 私こと

このたび 平成二十二年六月二十四日をもちまして 社会福祉法人 鶴風会 理事長を退任いたしました。在任中は格別のご厚情とご高配を賜り心から厚くお礼申し上げます。今後引き続き 社会福祉法人鶴風会会長として努力いたす所存です。一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお後任の理事長には 常務理事の中里 厚氏が就任いたしました。私同様今後とも変わらぬご支援とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

平成二十二年七月

社会福祉法人 鶴 風 会

会 長 五 島 瑳 智 子

謹啓 盛夏の候 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます

さて 私こと

このたび 平成二十二年六月二十五日をもちまして 社会福祉法人 鶴風会 理事長に就任いたしました。まことに微力ではありますが、誠心誠意努力いたす所存でございます。前理事長同様のご支援ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。まずは略儀ながら書中をもちまして就任のご挨拶を申し上げます。

敬 具

平成二十二年七月

社会福祉法人 鶴 風 会

理 事 長 中 里 厚

退職にあたり

医師 荒川とよ子

東京小児療育病院は日本の障害児医療の最先端を学ぶことができる場所だと思えます。この七年間はとても充実してました。今この病院を離れることになって、なげもつと食欲に学ばなかったかと後悔しています。しかし、東京小児療育病院の七年間のおかげで、「愛知県心身障害者コロニーこぼと学園」に採用され、私のライフワークとして障害児医療に携わることができることになりました。本当に心から感謝しています。

障害児医療のことを何も知らなかった私が、まがりなりにもやってこられたのは、医局の先生方、看護師、療育員、PT、OT、ST、心理士、栄養士さんなど本当に優秀なスタッフに支えられ、多くのことを学ばせていただいたからだと思います。富士山が見える自然豊かな環境で、本当に居心地のよい働きやすい職場でした。多くの利用者さん、ご家族、そして職員の皆様と知り合えたことが大きな財産となりました。名古屋に帰った後も、いろいろ教えていただくことがあります。今後とも宜しく願います。



北欧研修に参加して

〜氷も心もアイスブレイキング〜

外来看護係長 境 りえ

『みなさんが日本から春を運んできてくれました』と現地の方々から歓迎して頂けるくらいに研修中の九日間はお天気に恵まれました。日差しの位置も低く路面は雪と氷に覆われていましたが、ヒンヤリと冷たい空気が湿気がないせいや頬に心地よく、中世のヨーロッパの様な街並みを歩くと、『ああ北欧にやって来たんだなあ』と実感が湧いてきました。

【女性の社会的地位】

北欧は福祉先進国だと聞いています。確かに税金は高いようですが、男女問わず就業意識も高いと感じられました。

日本ではとかく結婚したら家庭には女性が入ることが当然のような考えがありますが、スウェーデンでは幼少教育（おままごとのレベル）から男女は50：50を教えています。子の両親には育児休業取得と給料の保証があるので結婚・出産・育児の段階を追うごとに日本のように女性がキャリアを失うことは無く、育児休業を父親が一年取得することもほうが多いようです。街を歩いていても電車やバスの中でも『ベビーカーとお父さん』という光景がとても多いこと！街の中には自然に溶け込んでいることが私たちにまず驚かされたことです。



お父さんとっしょ

【ストックホルムの障害児施策】

カロリンスカ大学アストリットリンドグレン小児病院では実際にお子さんとは会いませんでしたが、人工呼吸器（NIPPV）・気管切開・ガストロストミーのお子さんに対する、家庭でケアをしていく上での医療ケア技術や緊急時対応方法の指導の説明を聞きました。入院しているお子さんが学習するための院内学級もありました。

自閉症や知的障害者のデイサービスやショートステイのグループホームを訪問させて頂く機会が多く、どこも共通している事が『障害は病気ではない』『社会の一員としての自立』『私らしい生活』をコンセプトとしています。高校を出たら親からは自立する事が基本的な考えであり、その人が日常生活をする上で必要とするアシストは専門技術講習を受けた

パーソナルアシスタントが必ず付いてくれます。

グループホームは、個室が充実していても綺麗な空間でした。利用者が『私の部屋を見て』『僕の部屋も見てよ』と気さくに招き入れてくれました。ハビリティーションセンターでは未就学児が個々のプログラムのゴールに向けて機能トレーニングをしていましたが当院のリハビリ室の光景と似ていました。

フィルクローベン保育園では、障害のお子さんと健常児との統合保育が行われて、健常児たちの帰宅後にそれぞれのパーソナルアシスタントと数字合わせ・絵合わせ等の個別プログラムでトレーニングをしています。どこの訪問先でも絵カードがありコミュニケーション手段としてフル活用されていました。



カロリンスカ大学アストリットリンドグレン病院

【美しい海と島々】

名残惜しい中、客船バイキングラインでフィンランドに向かいます。船上ではバルト海に沈むサンセットと満天の星空、周囲の島々の森と雪の美しさ、航路を譲るように海面の水が割れる様子・夢のような景観に魅了され子ども達にはしゃいでしまいました。

【ヘルシンキの障害児施策】

フィンランドに入り知的障害者支援協会から講義を受けます。障害者が施設に閉じ込められていた時代から、錠が解かれグループホームという生活の場を得て、社会の一員としての明るい生活が始まるまでのストーリーには胸が熱くなりました。

知的障害者のデイサービスとグループホームを訪問しました。大規模知的障害者居住施設リンネコティでは自宅介護が困難な重い障害（経管栄養・吸引・吸入・酸素吸入まで）のあるお子さんが住んでいます。心臓疾患のあるダウン症で九歳のサミアちゃんが私の手を引いてゆっくりと歩きながら案内してくれたのがとても嬉しく感動的でした。

そして最後の訪問先、知的障害者居住施設ソフィアンレヘトで、重い障害（経管栄養・吸引・吸入・酸素吸入まで）のお子さんたちのショートステイを視察しました。白衣を着ない看護師たちが三交代勤務でケアをしています。献身的にケアしている姿に『私も看護師です。みなさんも体には気をつけて下さいね』と思

わず声をかけてしまいました。

これらの施設は、二〇一七年には施設解体するというプロジェクトの対象になっています。この施設がなくなったらこの子達はどうなるのか？重度的子どもたちも十八歳になったら自立の対象となるのか？生活の場はあるのか？

心配をして職員の方たちに尋ねると『この子達にはこの施設が必要です。でも施設解体後はどうなっていくのか私たちもわかりません。施設という言葉が変わりながらの形態に変わって残っていくのかもしれない』と当人たちにも見えていないのが現状のようです。この子達が安心して生活出来る環境が今以上に整えられることを心から願わずにはいられません。

【今回の視察を振り返って】

このたびの視察訪問先での管理者はすべてが女性であったことに女性の社会貢献度の高さを感じます。社会に守られ、その人がその人らしく最後の心配もなく生活できる北欧に移住する日本人も多く聞きます。他国を知ることによって、そして東京小児療育病院を客観的に見る良い機会となりました。

最重度の方でも当院のバックサポートで自宅ケアが出来る現状と、自宅で高度な医療ケアをされているご家族のご苦労にあらためて敬意を表したいと思います。今回の大きな学びは自分の人生にとってかけがえのない財産でもあり、看護師としても人間としても有意義なものとな

ることは間違いありません。今回の研修実現にご尽力いただきました五島理事長をはじめ、視察コーディネーターに携わって下さった日本人関係者の方々に心から感謝を申し上げます。貴重な体験をありがとうございました。[Back! (スウェーデン語でありがとう)]

北欧障害児者支援施設視察日程表

平成二十二年三月六日～十四日

三月 六日 関西空港発

三月 七日～十日

ストックホルム

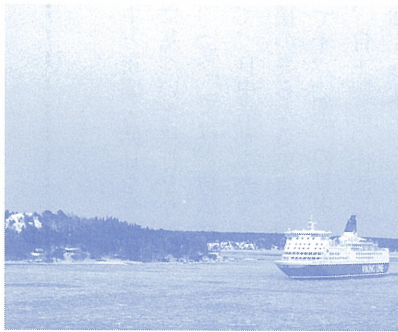
市庁舎・小児病院・重度障害ダイケア・知的障害センター・統合保育の保育園

三月十一日～十三日

ヘルシンキ

知的障害者の親の話
グループホーム・軽重度障害者学校・知的障害者居住施設

三月十四日 成田空港着



バイキングライン

通園での5S活動

通園看護係長 長田幸枝

5Sとは、職場環境を改善するためのスローガンのことをいいます。「整理・整頓・清掃・清濁・しつけ」これら五項目の頭文字が全て「S」であることから名称がつけられ、製造業などから先行してスタートした概念です。職場環境の美化やモラルを向上させることにより、職員の意識改善や、問題点が見えやすくなること、業務が効率化し、個人情報等の流失保護のメリットと、何よりも安全管理の上で重要と考えます。

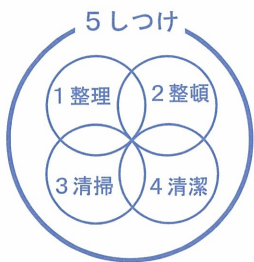
整理・整頓・清掃の3Sは従来よく言われることですが、通園では5番目のS「しつけ」に注目しました。5Sは、当たり前のことを当たり前に実行することです。たとえば「挨拶をきちんとできる」「使用したものは必ず元の位置に戻す」「時間・期限を守る」「約束したことを確実に果たす」などは当たり前のことですが、完璧に実行することは、なかなか難しいことです。

5Sは、その職場の道徳感や士気を反映しています。士気を職場への帰属意識ととらえると、職場への帰属意識の高さが、5Sの状態に現れます。5Sが徹底されている職場メンバーの仕事へのやる気や意欲は高く、仕事や職場への満足度が高くなければ徹底は行われません。5S活動を成功させるためには職場全体の盛り上がりが必要です。盛り上がる

ためには「全員参加」と「率先模範」が必要になります。特に、管理・監修者や職場リーダーの率先模範が重要です。これができなければ、職員の士気も上がりません。又、5S活動成功のポイントとして「整理ができていない状態」を明確化し職員全員で共有することが必要です。その上で「整理は繰り返し実行し思い切つて捨てる」。今まで通園では、節目ごとに整理整頓が行われていました。現在、5S標語を朝礼時に職員全員で指差し呼称を行い、意識を高めながら、看護準備スペース・幼少保育室・和室・脱衣室・ギャラリ―と順次整理が進行しています。今後、繰り返し整理整頓を実施する中で「ものを見る目」「現状を注意深く見つめる目」が養われていくと考えます。

通園の女子トイレには、絶えることなく、一輪の花が飾られています。飾り続けてくれる女子職員には、職場美化に対する意識と帰属意識の高さをいつも感じています。誰に指示されるでもなく行ってくれるその気持ちを大切に、5S活動の率先模範となり、職員全員での安全管理を目指したいと思います。

【5S活動】



西多摩だより

療育支援部長 柳瀬 達夫

先日、雨上がりの外を見ると綺麗な虹が空に大きくかかっています。空気が雨に洗われ、この美しい自然の造形を見ることができたのだと思います。

さて、現在の障害児者を取り巻く社会福祉の現状を見ますと、なかなか先を見通せる状況ではありません。一時期、障害者自立支援法に関しても、特に重度・重複の障害児者に関する部分についての改正が行われようとしていた状況がありました。政治の移り変わりなどでその動きも休止しているようです。その一方で、障害者自立支援法に替わる障害者総合福祉法の検討など、新たな制度についても取り上げられています。

このような状況ではありますが、先の障害者自立支援法では、多くの障害者施設が新しい制度に移行することが決まっています。西多摩療育支援センター内の身体障害者療護施設「がく」もその対象であり、今年の十月に新たな制度の施設として生まれ変わる予定です。

新しい施設体系は、日中活動を中心とした「生活介護事業」と夜間と休日の支援を行う「入所施設支援」との組み合わせによる「障害者支援施設」となる予定です。障害者自立支援法における入所型施

設も日中と夜間・休日を分離するという理念に基づいた移行となります。

現在、「楽」では、新法移行への準備として、日中活動の充実を図り、利用者支援のさらなる充実を図っているところ。『楽』の日中活動の主な構成は、自主製品の作成を主に行っている。「ひまわりグループ」、紙すきなどを主に行い自主製品の材料などを作っている「コ罗纳グループ」、行事のポスター作りやガーデニング、ゲームなどをして楽しむ「いいいちこグループ」の三グループが活動の柱になっています。さらに、新法への移行へ向けて、さらに活動メニューを増やし、より多くの方が活動に参加できるように、映画会や喫茶の時間、音や光のリラックスクスコーナーなどにも取り組んでいます。

今後の障害児者を取り巻く状況が必ずしもはつきりしない現在ですが、「西多摩療育支援センター」は、地域の障害児者の皆様に開かれた「上代継診療所」、重症心身障害児者通所施設「もえぎ」、そして新たな「楽」の組み合わせにより、少しでも先の状況を見通すよう努力して、障害の重い方々への支援を更に担って行きたいと思えます。

歯ミカップ賞を受賞しました

療育員 高橋 美穂

平成二十一年十一月五日、東京都多摩立川保健所にて開催された第三回歯ミカップに参加し、施設部門で歯ミカップ賞を受賞しました。『歯ミカップ』とは『歯ミガキワールドカップ』の略で、障がい者の歯と口の健康づくりを地域で考え発信するという、立川保健所を中心とした歯ミカップ実行委員会主催の大会です。西二病棟はプレ大会から毎年参加しており、今年こそは施設大賞を！と思っていました。惜しくものがしてしまいました。大賞はのがしたものの、西二病棟の取り組みが『応募施設の取り組み』に取り上げられました。

西二病棟では、三年前の療育研究で口腔ケアを取り上げて以来、口腔ケアには力を入れて取り組んでいます。昨年佐賀県で行われた全国療育研究学術集会にも参加し、病棟の代表が研究の成果を発表しました。療育研究で口腔ケアを取り上げてからは、利用者さんの歯肉炎が改善されたり、年に一〜二回みられていた感染症による病棟閉鎖がなくなりました。その結果、全病棟に吸引チューブ付き歯ブラシが普及し、ブラッシングへの意欲も広がっていきました。詳しい取り組みの内容としては、利用者さん個人の口腔ケアアセスメントシートを作成して月に二回担当の療育員が口腔内をチェックし、月に一度歯科スタッフにアセスメントシ

ートをみてもらいアドバイスももらっています。歯科スタッフと情報交換をし、必要な利用者さんには個別のブラッシング勉強会を開き、歯科スタッフの指導を受けて個々のブラッシングマニュアルを作成しています。また、施設で使用している歯ブラシの他にも、口腔スポンジや電動歯ブラシ、各洗口剤を使用している利用者さんもあり、可能な限り個人に合ったものを使用するようにしています。口腔ケアに力を入れるようになってから、ご家族の方からも口臭がなくなつた、発熱が少なくなつたと喜ばれています。

この大会には立川市・昭島市・国分寺市・国立市・東大和市・武蔵村山市の、個人・施設を合わせて百名を超える参加者が集まり、大賞を受賞した方や施設の口腔ケアの取り組みが発表され、情報交換が行われました。他の施設や個人の取り組みの発表を聞き、口腔ケアに対する意識の高さや工夫を知り、個人的にも大変刺激を受けました。

今回の歯ミカップ賞の受賞は、私たち病棟スタッフにとってもう一度普段の口腔ケアへの取り組み姿勢を見直す良いきっかけになったと思います。今後も利用者さんの健康維持のためにも、歯科スタッフと協力し、口腔ケアに努めていきたいと思います。



社会福祉法人 鶴風会
後援会だより

後援会会長の交替

会長 五島瑛智子

後援会会長は創立時からの理事本明登志子氏が前会長故桑原章吾先生の後を引き継がれ今日に至りましたが、九十二歳となられ、会務をお願いするのは申し訳ないので、中里厚氏が新理事長に就任されたのを機に、会長の私が、後援会長を兼ね法人の運営を支援することになりました。

本年もチャリティーバザーおよびチャリティーコンサートを企画しておりますので何卒ご協力の程をよろしくお願いいたします。

故桑原章吾先生のご遺族より三千万円のご寄付をいただきました。桑原夫人とご相談し施設の図書室があまりに不備なので、その整備に使わせていただくことになりました。

チャリティーバザーのお知らせとお願い

開催日 平成22年10月24日(日)
10:30~15:00
会場 東京小児療育病院院庭

チャリティーバザーへの、ご寄贈品のご協力お願いいたします。
イベント・作品展・模擬店など企画しております。
皆様のお越しを心よりお待ちしております。

お問い合わせ
総務部 TEL 042-561-2521

チャリティーコンサート
～オルフェの会～

とき 平成22年12月5日(日)
受付時間 11:30
開演時間 12:00
ところ 新高輪プリンスホテル
パミール・北辰の間
出演 ダウン症の音楽家の演奏と尺八との合奏
会費 25,000円



平成二十二年度の永年勤続者表彰式が四月二十二日に研修室で行なわれました。今年度の対象者の十九名に、五島理事長より表彰式と記念品が授与されました。

平成二十二年度永年勤続表彰者

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 勤続三〇年表彰 | 臨床検査技師 | そぶ川富士子 |
| P T | 染谷 | 淳司 |
| 勤続二五年表彰 | 調理師 | 米井 幸治 |
| 療育員 | 渡部 | 幸子 |
| 勤続二〇年表彰 | 用務手 | 中橋 智子 |
| 勤続一五年表彰 | 療育員 | 村松 健雄 |
| 療育員 | 高橋 | 直樹 |
| 療育員 | 佐藤 | 哲也 |
| 療育員 | 松田 | 智弘 |
| 療育員 | 川村 | 節子 |
| 勤統一〇年表彰 | 医師 | 牧野 道子 |
| 書記 | 竹内 | 真一 |
| O T | 児玉 | 雅巳 |
| T T | 寺尾 | 智樹 |
| 看護師 | 堀越 | 徳浩 |
| 看護師 | 清水 | 智美 |
| 療育員 | 秋田 | 裕美 |
| 療育員 | 久保 | 治 |
| 療育員 | 斎藤 | 工恭 |



鶴風会後援会へご寄付者ご芳名

平成21年12月～平成22年5月
名(五十音順・敬称略)

相沢 ミツエ・青木 悦・青木りう子
朝川 孝幸・浅川 恭行・浅見 薫子
朝山 裕・朝山 隆司・朝山 浩行
足高 毅・足立 嘉子・阿部 雅章
阿部 正和・安部 良治・荒木美枝子
飯田美保子・飯田 和成・石北 寿子
石田 敬子・石田 哲朗・石見 亜矢
石見 徹夫・伊藤 元博・伊藤 治男
伊藤 文子・伊藤 正俊・井上 瑞穂
井上 康子・猪俣賢一郎・今田 峰子
岩瀬 七重・上田 哲郎・内 孝
宇野 拓・宇野久仁子・梅田 嘉明
梅田みほ子・大久保 泰・大関 忍
大高 究・大竹 喬二・大谷 宏明
大場 幸延・緒方 月・岡田さと子
奥村 研三・忍足美代子・小野田 絹
小原 明・小原 桂子・小山田妙子
鹿島田忠史・勝田三枝子・勝目 幹郎
加藤 尚之・加藤 葉子・金森 勝士
金子 晴生・金子稜威雄・鎌田 昭次
鎌田 直子・釜范 登志・河津 緑
岸 芳正・北野千賀子・鬼頭 秀明
木下美代子・木村 丹・木山 博夫
久保 博・久保さや佳・久保田伸枝
久保 初美・黒瀧 俊彰・月花 亮
甲田 英一・後藤加寿美・小林 静江
近藤 弘子・西條 公勝・齊藤 眞一
齋藤 洋子・佐多 由紀・佐藤 中
佐藤 重雄・佐藤 裕美・佐藤 幸子

佐藤 麗子・設楽 誠・志鳥眞理子
柴 昌徳・嶋田 寛子・島田 敏雄
清水 一輝・菅野 寿子・杉本 寛子
鈴木カツ子・鈴木 信介・鈴木 秀明
炭山 嘉伸・炭山 朋子・高亀永美子
高木 芳夫・武居 正郎・武居 友子
武田 毅・武田 徹・竹中希久夫
多田 久人・田中 政信・谷野 徹
柘原 宏久・田部 秀山・田宮 親
田宮三鶴代・梶 会・塚越 実
月本 一郎・月本 伸子・堤 俊一郎
壺阪比路里・富山 邦次・長岡 貞雄
中里恵美子・長沢 実佳・中島 桂子
中島 倫子・中谷 尚登・中野 敏江
長野 文子・中村 豊・中村 映子
中村志津子・並木 温・西井 華子
西田 隆寛・西平 守夫・西宮 常代
能谷 正雄・野口 隆敏・野中 杏栄
野中 博子・野村 直子・橋口 玲子
橋本 一栄・浜田 雅・早川 浩市
林 晴男・早瀬川 昌・早原 千鶴
原 まどか・原田 孝・原田千鶴子
原田裕美子・原山 国秀・東出 祥子
平田 徹・福田 孝子・藤井奈保子
藤田よし江・藤野 隆子・堀川 一博
前田 澄子・益子 智貞・増田登志子
松島 英乃・松原 龍弘・松本 章
松本 知子・丸山 和子・美島 利通
水野 惇子・水野 孝子・水上 淳子
宮川千鶴子・三宅 三・宮崎 元伸
宮本 宣義・宮本 みち・向山 秀樹
武者 芳朗・村井 昌允・村川 公一
村川世津子・本橋 俊和・森 克彦

森 紘子・森 紫珠子・盛川 温子
安土 達夫・柳川 悦子・柳田 謙蔵
矢野 春雄・山崎 愛子・山崎 公子
山下 育子・山田 輝代・山村 憲
山本 泰久・山本 高裕・山本みどり
袖須 紘一・横山ちとせ・吉崎千代子
吉田 宏重・吉田 友英・吉見 梓

阿部美代子・飯塚 忠春・伊藤九一郎
宇佐美匡由・江田登茂治・海老原明子
海老原健介・小沢 浩・加藤奈津子
神岡 邦子・上岡 謙夫・櫛田 正明
桑原 千草・弦間 経・小池 時史
河野富美恵・齊藤八重子・佐藤 明子
佐藤 清子・清水 香子・白石由貴子
鈴木 康之・清宮 祥子・高橋 孝彦
中里由理枝・野見山捷昭・舟橋満寿子
本明 寛・松尾 賢二・松本 誓子
宮本 栄子・守田 洋・森田 英雄
森田 康裕・安本マサエ・山崎 恵子
山科のぶ子・山田耕一郎・山谷 敏男
吉川 芳登・吉永 久子・渡辺真佐子
父母後援会

平成21年12月～平成22年5月
名(五十音順・敬称略)
社会福祉法人鶴風会へご寄付者(芳名法・団体個人)

編集後記

法人広報誌「はぐくむ」は年に2回
発刊しております。今後も、皆様の意
見をとりいれ、より充実した広報誌に
していきたいと編集委員会一同願って
おります。どんなことでも結構ですの
でご意見がありましたら、お聞かせ下
さい。

紙面の都合上、一度に多くの記事を
掲載できませんが、多くの話題を皆様
に提供できるよう努力していく所存で
す。

編集委員会

